

# 「協働のまちづくり」をめざして 市民と市長の対話集会

市民と市長の対話集会



9月19日(水)の夜、きよみ館大会議室にて、國島芳明高山市長を迎え、「市民と市長の対話集会」を開催しました。

地域が置かれている現状や要望を市長に直接伝えることができる貴重な機会。町内会長や地域の皆さん約50人がこの夏に起こった災害時に受けた被害への対策、災害時における全地域への速やかな情報伝達、地域活性化への協力などの要望を伝えました。

國島市長は要望の一つ一つに丁寧に回答してくださいました。住民ひとりひとりが安全で安心に暮らせる町への実現に向けての一步に繋がっていくことでしょう。

## 第2回 女性委員会講座

9月26日(水) アロマワックスパーづくり

「正プラス(株)」の住友子さんを講師に迎え、女性委員会講座を開催しました。ハンドメイド好きの女性から人気のアロマワックスパーを作りました。湯煎したミツロウを型に流しこんだあと、ドライフラワーなどで飾ります。



終盤には代表取締役の稲本正さんがご登場というサプライズが！国産アロマの良さについてのお話をしてくださいました。やがて57人の素敵な作品が出来上がりました。参加者からは「アロマの香りに癒されました」と喜びの声が聞かれました。



## 秋の実りに感謝して 稲刈り体験

9月18日(火)、清見小5年の児童22人が、三日町の塩谷敏雄さんの指導のもとで稲刈りを行いました。子ども達は鎌で刈った稲を保護者や地域の人に束ねてもらい、稲架(はざ)に掛け、天日に干しました。2週間ほど乾燥させてから、脱穀します。



これらは12月初旬に行われる収穫祭にて、餅にして全校児童にふるまいます。



家庭の日は10月21日(日)です  
会いさつは 人と人がつながる  
愛ことば

清見中学校

3年生

金子

蒼里

# 清見町まちづくり協会の

第43号  
平成30年10月1日  
清見町  
まちづくり協議会  
事務所：きよみ館  
TEL77-9516(直通)

7月の豪雨や台風21号による被害が大きかった清見町ですが、そんな中で、今年も豊作に感謝し、9月1日(土)から22日(土)に掛けて、13の神社では厳かに例祭が執り行われました。

## 9月5日(水) 牧ヶ洞神社夜祭り

清見町で唯一夜祭りが行われる牧ヶ洞神社。牧ヶ洞においても、4日からの停電で不自由を強いられました。そんな非常事態の中、地域の皆さんは心一つにして、夜祭りを行いました。夜祭りでは、獅子舞、鬨鶏楽、そして市の無形民俗文化財にも指定されている伊勢神楽を奉納しました。行われた夜祭りは大変幻想的でかつ素晴らしいもので、地域の人々の心を温かく灯すものとなりました。

# 清見のまつり 2018

## 9月13日(木) 藤瀬神明神社例祭

前日に雨が降り雲行きが怪しい中、藤瀬神明神社の例祭が行われました。

神殿にて浦安の舞が厳かに行われた後、境内にて獅子舞や鬨鶏楽が奉納されました。

また校外学習に来ていた清見小2年生がメモを取りながら、祭りの様子を見学していました。



生憎の悪天候で行列や子ども神輿は中止となりましたが、神殿での儀式終了後は奇跡的に雨が上がり、境内で獅子舞奉納が行われました。

## 9月15日(土) 福寄白山神社例祭



# 平成30年 台風21号災害 町内各地で大きな被害

9月4日(火)、日本列島に上陸した台風21号は25年に一度と呼ばれる非常に大きな規模のもので、主に近畿地方に甚大な被害を及ぼしました。ここ清見町内でも一時、降水量が氾濫危険水位を超え、町内11地区にて数日間に及ぶ停電があり、生活に打撃を受けました。

また屋根の破損(1戸)、市道・林道の倒木(10路線)、そしてビニールハウスの被害(図参照)など、町内のいたるところで大きな爪痕を残していきました。

ビニールハウスの被害	
被害農家	31戸
・ビニールの破れ	99棟
・パイプの破損	70棟

(清見支所基盤産業課調べ)



## きよみ歴史探訪

清見の神社シリーズ③ 藤瀬神明神社  
藤瀬神明神社が造営された年代は定かではない。飛騨地方における神明神社には、神社の祖型とされている太陽崇拝や山岳崇拝からなる原始信仰に基づいたものが多く、また原始信仰の対象となった自然物や自然現象はのちに神格化され、ヤマト王朝創始時代の王族や家臣をあはれた例が多い。

清見の神社の多くを占める白山神社などは山岳崇拝から出ているし、神明神社にしても太陽もしくは太陽の出る山に対する畏敬の念が素朴な信仰形式に発展したのが祖型と考えられる。当神社も日ごとに太陽を年々出すと言われた、源氏岳清見村藤瀬と高山市越後谷の境界にある山を神の「よりのしろ」として崇拝したのが始まりではないかとされている。

長滝寺文書によると、源氏岳は平安時代まで「日出摩山」と称されていたことが明らかになっている。「日出摩」とは日出する山と意味し、藤瀬側から名づけられた名称である。

今谷から源氏岳へのぼる途中に松の神木門立岩・ミンギの滝・立岩くらが、明らかに源氏岳を対象とした跡が見られる。山の形も左右等辺の独立した山で、神が鎮座したような山の形を示していることを考えるとこの神社は太古の頃からここに住んでいた人々によって祀られていたのかもしれない。

また今谷の入り口付近からは石器や土器、縄文時代中期の大石棒も出土している。

神社は境内を移転したと言いつたが、当初は源氏岳に向けて建てられたものと思われる。

(参考文献「清見村誌」)

